日 時 令和6年12月9日（月）午前10時～
場 所 蒲都市役所 本館3階 304会議室

1 開会

事務局より資料の確認。

2 議題

(1) まちづくり賞の選考について

・葵みつば会は、今年度蒲都市市民憲章推進協議会実践者表彰を受賞しているため、選考の対象外となる。

<山友会について>

・山友会の推薦書については、内容が昨年度の推薦書と同じであり、事務局から補足説明はあったが、この内容で選考することはどうか。前回の選考時にも、地域やまちとの関係で可能性が広がると良いとの議論があった中であり、今回の推薦内容で選考することは難しいのではないかと。

・どうしても山登りの自己満足のように感じてしまう。もっと地域と関わる要素があると良いと思う。

・こういった活動により、山道の整備が進み、景色も良く見えるようになれば、蒲郡を愛する人が増えていくのではないかと。また、中学生との取組みもあるようなので、低山整備からの広がりが期待できる活動である。

・山の魅力を市民へ伝える事業においては、ルート整備など様々な場面で協力をいただいている。

・山友会さんは、昨年2月から緑の基本計画策定委員会の委員になっている。義務的に緑の整備に関わる人だけでなく、山を楽しむ人たちや関わる人たちが参画することによって、これからの山を負担感ではなく宝として捉えて考えることができ、広く市民に山登りの機会を作り、山に関わる人を増やす点で尽力いただいていると感じている。

・地域やまちへの広がりという点では、つながるためのアプローチの方法が分からないのではないかと。まちづくり賞を受けることにより、活動を市民に知ってもらうきっかけとなり、新たなつながりが生まれ、地域などから求められていることが明確になれば良いのではないかと。楽しみから始めたものが評価されることで広がりを見せていくという期待感を込めてのものであれば表彰する意義はある。

・今は市民の中に入れていないかもしれないが、この賞を受けることで、活動が市民に周知され、広がりをみせると良い。

・賞を受けて終わりではなく、その先が大事なので、受賞をきっかけとした取組ができると良い。

・山友会の代表は地域の活動などにも非常に前向きに取り組む方なので、受賞後の取組を期待することも良いのではないかと。

・昨年度と全く同じ推薦書で前回選考されていないため、評価すべき内容を推薦書に書いてもらったうえで、次回会議での選考としたい。

(2) 協働まちづくり事業の報告について（別紙1、2）

- ・助成金事業について
- ・指針推進事業について

<助成金事業について>

- ・利用が低調な要因として、周知が足りないと感じている。従来の周知方法だけでなく新たな展開も必要である。
- ・助成金の利用はコロナ前から徐々に減り始めていた。助成金にチャレンジする人が、成功への不安から自分自身でハードルを上げてしまうことがある。先輩方から成功した話も聞くが上手くいかなかった話も聞くため、マイナスのイメージが残ってしまうようで、リスクのイメージをどう打破するかも課題として捉えている。
- ・解散を考えている団体も出てきているが、新たな団体もでき始めており、助成金を使ってリスタートできると良いと思っている。
- ・最近の助成金相談では、個人のアイデア段階のもので、団体としての体制づくりができていないケースが多く、サロンのような、仲間づくりができる環境を作っていく必要性を感じている。
- ・様々なワークショップなどの機会が増え、個人の関心やアイデアは高まっているように感じるが、助成金事業のような大きな動きにはなっていないのが現実だと感じる。
- ・イベントに参加していると、市の事業などを紹介するブースや、まちづくり関わる人のブースがあっても良いのではないかと感じる。
- ・8月24日の形原っ子フェスティバルでは約900名が集まった。その際には、市のブースも作り、市の考えが住民の皆さんに伝わる機会として関係部署に依頼をしたが、市と一緒にやるのも良いことだと思った。
- ・まちづくりが主のイベントの場に助成金や活動を知るブースなどがあると良い。
- ・待って来ないのであれば行ったらどうかということで、活動をしている団体さんに話を持って行って実例として作っていくことも必要ではないか。
- ・このまま利用がないと予算が削られてしまうのではないか。
- ・要項など文字だけだと伝わりにくいので、今まで助成金を受けた団体が今どうなっているのかなど、サイトやブースで事業例として紹介してもらえると分かりやすいと思う。
- ・若者議会の提案を助成金で実現できるようにサポートするなど、若者議会とも絡められると良いのではないか。
- ・若者議会が単年なので、継続性を持たせられる仕組みを作ると良いと思う。
- ・若者議員が助成金事業として実行できなかったとしても、助成金制度を知ること、何かの機会に情報として紹介できたりするので、若者議会への働きかけは良いと思う。
- ・まちづくりはイベントをやることのように捉えられがちだが、意識的なところに対する活動を地道に続けていくことも大事な取り組みであり、そういった活動を含めて広く知ってもらうことが大切だと感じている。

- ・助成金事業に対する実績報告会はあるが、その先の活動を掘り下げて紹介することはできていないため、そこへのアプローチが必要だと感じた。
- ・油菓子事業でも裏方で動いてくれる人がおり、そういった人がいると形になりやすいように思う。
- ・それぞれのセクションでできないことがあれば、他の組織や人の力を借りて一緒に取組んでいけば良い。
- ・各自が持っている思いから、どうアイデアを生んで形にしていくかのような、活動の一手手前の部分にアプローチすることも大切ではないか。
- ・個々の思いを話すことでつながっていくことがあり、団体をつなげていく取組みをしたら良いのではないか。
- ・中小企業の人たちのオープンファクトリーの取組みのように、地域でどのような活動がされているのかを知る機会づくりも大切ではないか。
- ・東部小学校でサーキュラーシティの話や海の環境を守ろうという話をした際には、子どもたち自らが何かできないかと考え、ポテトチップスマンというアイデアが出てきた。児童と一緒に蒲郡のポテトチップスを作ろうという取組みを進めているが、子どもたちのアイデアはすごく大事だと感じている。
- ・若者議会は4期目に入り、運営委員会の方々も継続した組織へという認識を持っているようだ。
- ・助成金は良い制度を作っても伝わりにくいという課題があり、実例を見える化し、紹介していけるようなことを考えていきたい。
- ・思い切ったデザインのポスターを駅に貼るなど、見てもらうきっかけをつくれると良い。
- ・まちづくり賞でも安心ひろめーるで流すなどして、知ってもらうと良い。
- ・試行錯誤しながら事業にチャレンジできることを周知できると良い。

(2) 協働モデル事業について（別紙3、4）

<多様な居場所づくり事業>

- ・「ほしい」ではなく「したい、やりたい」からスタートするものではないか。自らが「意見交換できる場を作りたい」とならないと動かない。
- ・1 団体が会議室を借りて会議をすることと、カフェを利用することの違いを明確にした方が良い。1 団体の貸し切り利用のルールなど。
- ・現時点では1 団体の貸し切り利用は想定しておらず、会議をやったとしても、オープンな場としての利用を想定している。
- ・勤労福祉会館利用者が利用しやすいカフェのため、活性化できると良い。
- ・何を狙った場とするかは多々あり、ある1つの団体が飲食の提供を含めてやることも考えられるが、ワンデーシェフ的な発想で色々な方が日替わりで担うことや、障がいを持っている人たちの社会参画を兼ねてという考え方もある。一方で、提供する側からすれば、利用する人たちの視点、自分自身がどういう場所なら行きたいのか、という視点で考えることも求められる。
- ・福祉課が考えるコンセプトに賛同しながらも様々な角度からのチャレンジを考えており、2～3年かけて試行しながら考えていきたい。

・これまでのカフェを見ていると、お客さんの交流もあるが、カウンターの中の交流も活発であった。例えば、障がいを持っている方の親同士がバックヤードで意見交換をしたり、次の世代の人との交流などが生まれており、互助を深めていく点からも有効ではないかと感じている。

・障がい者雇用の関係では、施設からすぐに企業というのはハードルが高く、間に社会参加できる経験を入れられないかという話を聞く。学生がアルバイトを経験して就職するように、何らか自分の家族以外と交流する場としての展開も考えられる。社会参加が難しい方々を切り捨てるのではなく、様々な方が参加しやすい場所にしていければと考えている。

・進める中で、参加者の意向を見ながら、別のコンセプトが見えてくれば方向転換もあると思っている。

・福祉的な居場所の考え方についても、福祉のためにという見せ方だけでなく、「ここっていいよね」と思える場であることが大切となる。

<若者居場所づくり支援事業>

・モデル実施の施設は駅から近く高校も近くにあるため、将来的に市中心部に展開できればというビジョンを持ちながら行おうというもの。

・もともと地元の集会所と児童館との複合施設として利用され、多世代交流も行っていた場所。現在は運営面で上手くいかなかったようだが、若い人たちが関わり、若者が集う場所となるのは嬉しいことだと思う。

・若者の居場所については、子ども家庭庁でも進めていると思うので、情報収集をすると良い。京都でユースセンターの事業をやっているようなので、そういった他市の先進事例を視察するなど、参考にしながら進めると良い。

・居場所づくりはすごく難しい。居場所をつくる人は、居場所になってほしいと思ってつくるが、実際にその場が居場所になるかならないかはその人が決めることになる。若者の居場所をつくっても、若い人が皆来るわけではなく、当然に合わない人もおり、色々な形をやっていく必要があると思っている。

(3) 委員の改選について

・令和7年度が改選の年のため、来年度の委員継続の意向確認をさせていただく。

3 その他

<連絡事項>

賀詞交歓会 令和7年1月19日(日) 10時～ 勤労福祉会館大研修室

<次回会議予定>

・第4回 令和7年2月17日(月) 10時～ 305会議室